広報 なりた 新生成田の創造

成田歴史玉手箱

55回

歴史と伝統文化のまち・成田。市内には、歴史ある文化財が多数あります。

昭和30年代中頃の観音堂
（「写真集　明治・大正・昭和　成田」より）

木隠れ観音伝説

未来への願望を込め変貌する成田を予言

“この観音様の姿が隠れ、見えなくなったとき、この地は途方もなく発展するだろう”という「木隠れ観音」の言い伝えが八代（やつしろ）地区に残されています。この観音様とは、玉造3丁目にある宝徳寺観音堂の敷地内にあるシイの古木の根元に祭られた石像のことです。

「終戦後間もないころ、父が古老からこの言い伝えを聞いていたようです。わたしが住職になった昭和40年代初頭には、根元に5cmほどの穴から中をのぞくと台座？のような石が見えていました」と語るのは、善勝院の住職・片寄照文（八代）さん。しかし、歳月とともに幹が成長し観音像は木の中に姿を隠し、今ではそれを拝むこともできません。「観音像全体が見えていたころは随分と昔のことでしょうね。このあたりは山林と畑しかなくとても寂しい場所だった」と言います。

「木隠れ観音」の伝承を残すシイの古木と現在の観音堂

ところがこの言い伝えは現実のものとなりました。山林や畑には高層住宅や一戸建て住宅、そして大型店舗・スーパーなどが建ち並ぶ、人口約3万3,000人が暮らすニュータウンに変貌しました。先人は当時からこれほど様変わりすることをずっとずっと昔から予想していたのでしょうか。

毎年4月18日に開かれる宝徳寺の例大祭

宝徳寺は、室町時代の宝徳年間（1449～52）に創建されたと伝えられる真言宗のお寺です。本堂は昭和30年代に取り壊され観音堂だけが残りました。お堂はその形から通称「六角堂」と呼ばれ、貞享元年（1684）に近江国柏原村（滋賀県）の吉田又左衛門家次が設計したと棟札に記されています。立派な厨子（ずし）の中には本尊である聖如意輪観音（しょうにょいりんかんのん）の小像が安置されています。本尊は子育て観音ともいわれ、例年4月18日には八代や八生地区などをはじめ人々が大勢集まり、安産と子どもの健やかな成長を祈る護摩祈祷（きとう）会が行われます。

六角堂形式をもつお堂は、県内でも君津市の鹿野山神野寺に一例あるだけで、建造物・建築史の面からも大変貴重なもので昭和46年に市の指定文化財となりました。

片寄さんは、「ニュータウンに残る唯一のお寺。古老の残した言い伝えは、わたしたち子孫への期待と未来への願望を見る思いがします。その教えを大切にして伝承を長く伝えたい」と古木の前に『木隠れ観音の由来』と題した説明板を立てました。

編集後記

11ページではISO14001認証取得へ向けた市の取り組みを紹介。国際化が進む中、世界標準規格があれば便利なものがたくさんあります。例えば日常使われるキャッシュカードの形（ISO7810）、ねじ（ISO68）、信号の色（ISO10526）など。これらに比べ今回の「環境管理の仕組みの国際標準」は抽象的なのがやや難点。ところで、ISO規格は言わば世界共通言語のようなもの。地球環境を考えるには、まずはこの言葉（ISO14001）を習得しなければなりません。

広報なりたは再生紙（古紙配合率100%・白色度70%）を使用しています。